

〈第1章〉 研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を大切にした学習展開と評価の工夫

2. 研究主題設定の理由

社会的な要請と
学習指導要領

平成14年度から完全実施となった学習指導要領は、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康と体力」などの「生きる力」の育成を基本的なねらいとしている。

21世紀を迎え、子どもたちは、これまで以上に激しい社会の変化に直面することが予想される。これからの社会を担う児童生徒が、主体的、創造的に生きていくために、一人一人の児童生徒に「確かな学力」を身に付けることが学校に求められており、学びへの意欲や習慣を十分に身に付けることや、一人一人の個性や能力を最大限に伸ばしていくことが大切である。

学校週五日制完全実施の中で、授業時数や学習内容が削減されたことに端を発した「学力低下論争」の中で、あらためて今、「学力」とは何かが問われている。

前次研究の成果と課題

当研修センターでは、平成14年度から2年次計画で「自ら学び、共に高まり合う学習指導～指導に生きる評価の在り方～」という研究主題を設定し、研究を進めてきた。研究を通して、「学び方（自立と共生・共創の姿）」の育成というねらいに沿って、基本的な考え方や学習形態についての研究を深めると共に、具体例や検証授業を通してより実践的な研究にすることができた。特に、知識・技能の定着と同時に「周囲とかかわりながら学ぶ力」を育てるという授業感を具体化し、理論・実践を深めることができたことは大きな成果である。

管内各学校の現況

しかし、「基礎・基本の定着」というねらいに対しての理論や具体的な実践検証が不十分であったことや「評価規準の段階設定とそれぞれの評価規準の在り方」、「各観点ごとの評価方法の在り方」等において課題が残った。またアンケート調査により、管内の各学校においては、「評価規準の整備状況」や「評価方法」等が不十分な状況にあることがわかった。

「学力」とは

あらためて、「学力」について振り返ってみると、「学力」については次のように示されている。(平成12年度「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」より)

学力については、知識の量のみでとらえるのではなく、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることはもとより、それにとどまることなく、自ら学び自ら考えるなどの「生きる力」がどうはぐくまれているかによってとらえる必要がある。

「確かな学力」とは

「生きる力」を「知」の側面からとらえたものが「確かな学力」である。学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせること。それにとどまらず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、

よりよく問題を解決する能力を伸ばしていくこと。これが「確かな学力」を育成していくことである。

そこで今後は、「確かな学力」を育成するために、「学び方」に焦点を当てた昨年度までの研究を基盤とし、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることを大切に学習指導について研究を推進することを目的として、本研究主題を設定した。

3. 目指す子どもの姿

基礎・基本を身に付け、それを進んで次の学びや生活に生かそうとする子ども

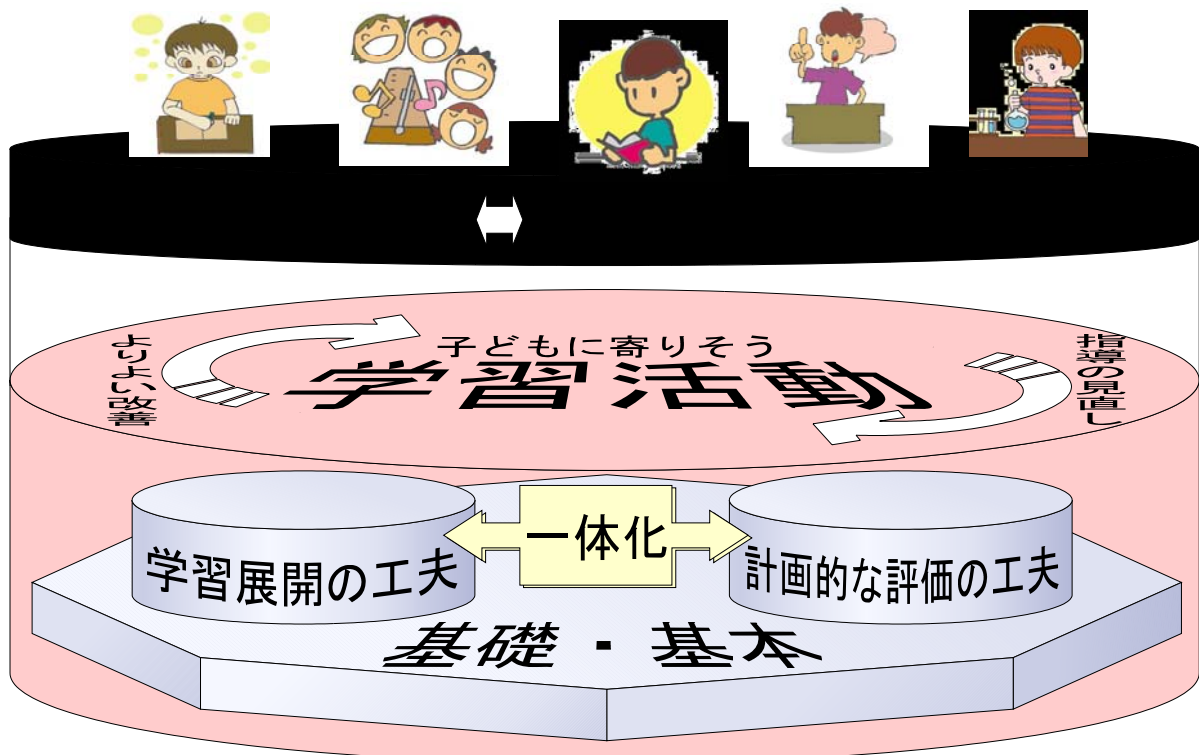
- ・自ら課題を発見する。
- ・既習の経験を生かし、解決方法を考えたり、結果を見通したりしている。など

- ・意欲的、主体的にねばり強く解決に取り組む。
- ・よりよい解決のために、積極的に友だちと関わろうとする。
- ・友だちとの交流で得た情報を自分の考えに生かす。
- ・自分の考えや思いを表現しようとする。など

- ・自分の学び方をふり返り、次の問題解決に生かす。
- ・周りを自分の鏡として見ながら自分自身を高める。
- ・学習したことを日常生活の中で活用しようとしている。など

4. 研究仮説

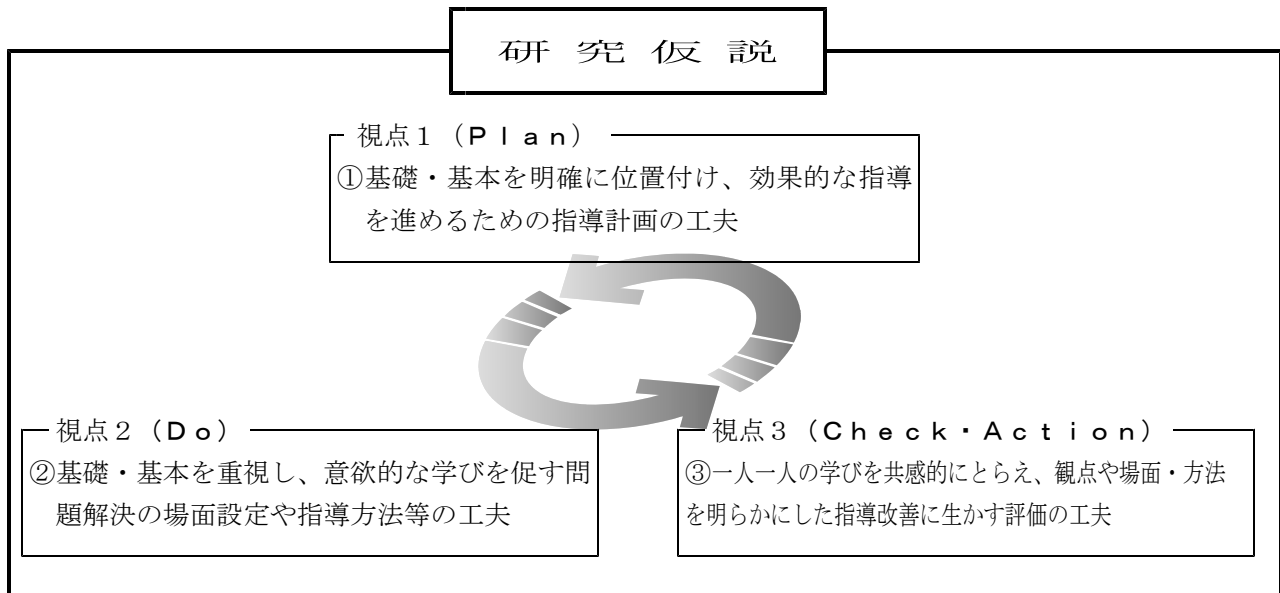
基礎・基本を明らかにし、それを生かした学習展開の工夫と、計画的な評価との一体化を図った学習活動を行うことにより、意欲的に学習に取り組み、身に付けた基礎・基本を進んで次の学びや生活に生かそうとする子どもを育てることができる。



今日、学校教育においては、基礎・基本の確実な定着を目指した授業構築が求められている。そのためには、基礎・基本を明確にして指導計画を立てることが必要である。また、指導計画と同時に評価計画も立て、両者が一つものとして連動していくことが大切である。つまり、授業が展開されるなかで、身に付けるべき基礎・基本を子どもたちがどのように獲得していったか、理解が図られたのかを教師がしっかりと評価していくことである。さらに、評価は単に子どもが理解できた、できないで終わるものではなく、評価した情報を基に、教師は自らの指導を見直し、次の指導のために改善されていかなければならないと考える。

そのような授業構築と実践を繰り返していくことで、基礎・基本の定着が図れていくと共に、学習意欲が高まり、また獲得した基礎・基本を次の学びや生活に生かそうとする子どもを育てることができると考える。

5. 研究の視点



6. 研究の計画

第1年次 研究計画

【第1年次】平成16年度（2004年度）「調査研究及び理論研修と実践」

- 前年次研究の振り返り
- 管内各校の研究推進状況の把握（アンケートの実施と考察）
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の決定
- 理論研修と資料収集
- 所員、研究員の検証授業
- 中間報告書の作成

第2年次 研究計画

【第2年次】平成17年度（2005年度）「理論研修と実践」

- 前年次研究の振り返り
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の見直しと修正
- 理論研修と資料収集及びより具現化する授業構築
- 所員の検証授業
- 中間報告書の作成

第3年次 研究計画

【第3年次】平成18年度（2006年度）「理論研修と実践、まとめ」

- 前年次研究の振り返り
- 管内各校の研究推進状況の把握（アンケートの実施と考察）
- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の確立
- 理論研修と資料収集
- 所員の検証授業
- 研究の成果と課題の整理
- 研究紀要の作成

7. 研究構造図

